

# 放射線技術部だより

白十字病院 放射線技術部 広報誌



## 本号の記事：

- アブレーションについて -1~2ページ
- アブレーションと放射線技師、  
3D画像について -3ページ

## 心臓カテーテル アブレーション

当院では専用装置を新規に導入し、2023年9月より心臓カテーテルアブレーション治療を開始しました。本号は、アブレーション治療とはなんたるか、またその中での私たち放射線技師の仕事をご紹介します！

# 心臓カテーテルアブレーションについて

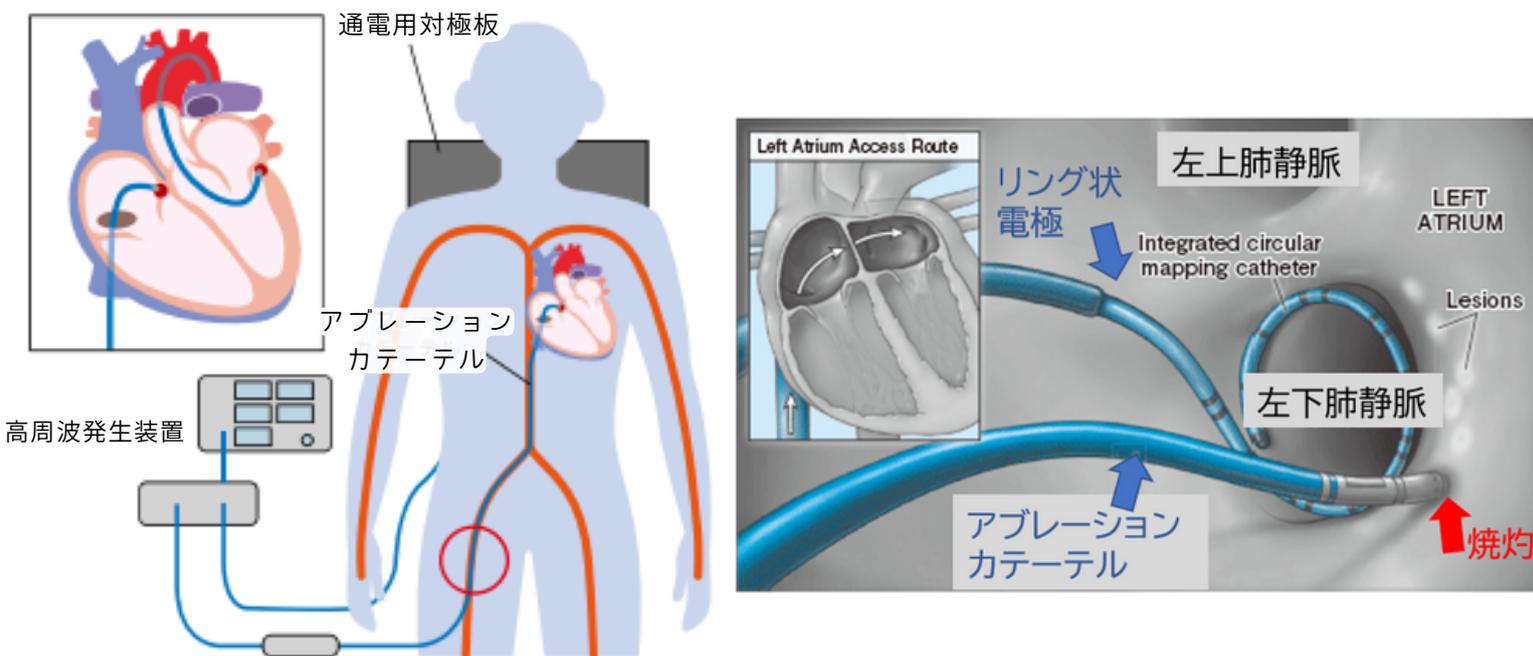


## アブレーション術って？

正式名称を、経皮的カテーテル心筋焼灼(しょうしゃく)術と言います。

アブレーション術は、不整脈に対する治療の選択肢に挙がるものです。

不整脈を引き起こす異常な心臓の組織を焼き切って、心臓の正常な脈を取り戻す治療です。薬を服用して症状を緩和する薬物療法とは異なり、原因に対して直接治療をするので、根治が目指せる手技となっています。対象となる疾患は、主に頻脈性不整脈であり、心房細動、心房粗動、心房頻拍、発作性上室性頻脈が挙げられます。

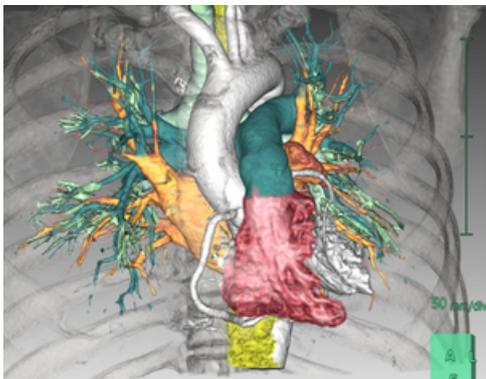


首や足の付け根の血管からカテーテルという細い管を挿入し、X線透視下で血管の中を進めます。カテーテルの先端には電極と呼ばれる金属がついており、これによって、心臓の中の電気の流れを記録したり、電気刺激したりすることができます。治療に移ると、焼灼用のカテーテルを心臓の中に進め、高周波電流を流して心臓の筋肉が温められます。一定の温度以上に上昇するとタンパク質が凝固し、心臓の筋肉が電気を伝えることができなくなるため、不整脈の発生を抑えます。

# 放射線技師の役割

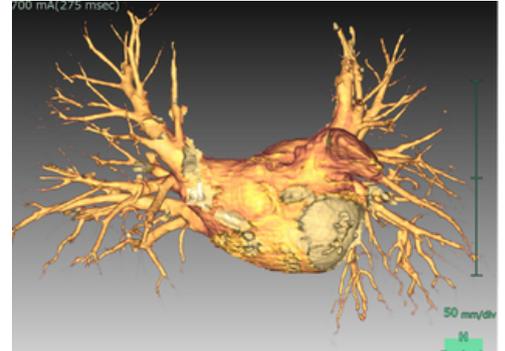
## アブレーションと放射線技師

アブレーションの術前に造影剤をつかった心臓CT検査を行います。この検査で得られた画像をもとに、アブレーションの術中に使われる3D画像が作成されます。術者は、この3D画像を見ながら正確な焼灼位置を確認しながら治療を進めていきます。

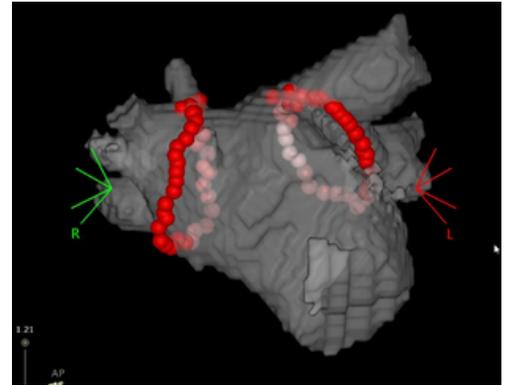


この3D画像では、心臓、食道、血管、気管支などの位置関係を把握できます

▼CTデータから作成した3D画像



▼術中に使用するマッピング画像



## 色々な3D画像

当院では、3Dワークステーションと呼ばれる、3D作成ソフトを用いて、心臓をはじめ血管や臓器、骨などの画像を作成し、患者さんへの説明や手術計画などに様々な場面で役立てています。

有益な画像を作成するのも私たち診療放射線技師の大切な仕事です。様々な知識と細かな技術が求められるため、私たちは日々勉強しています。

